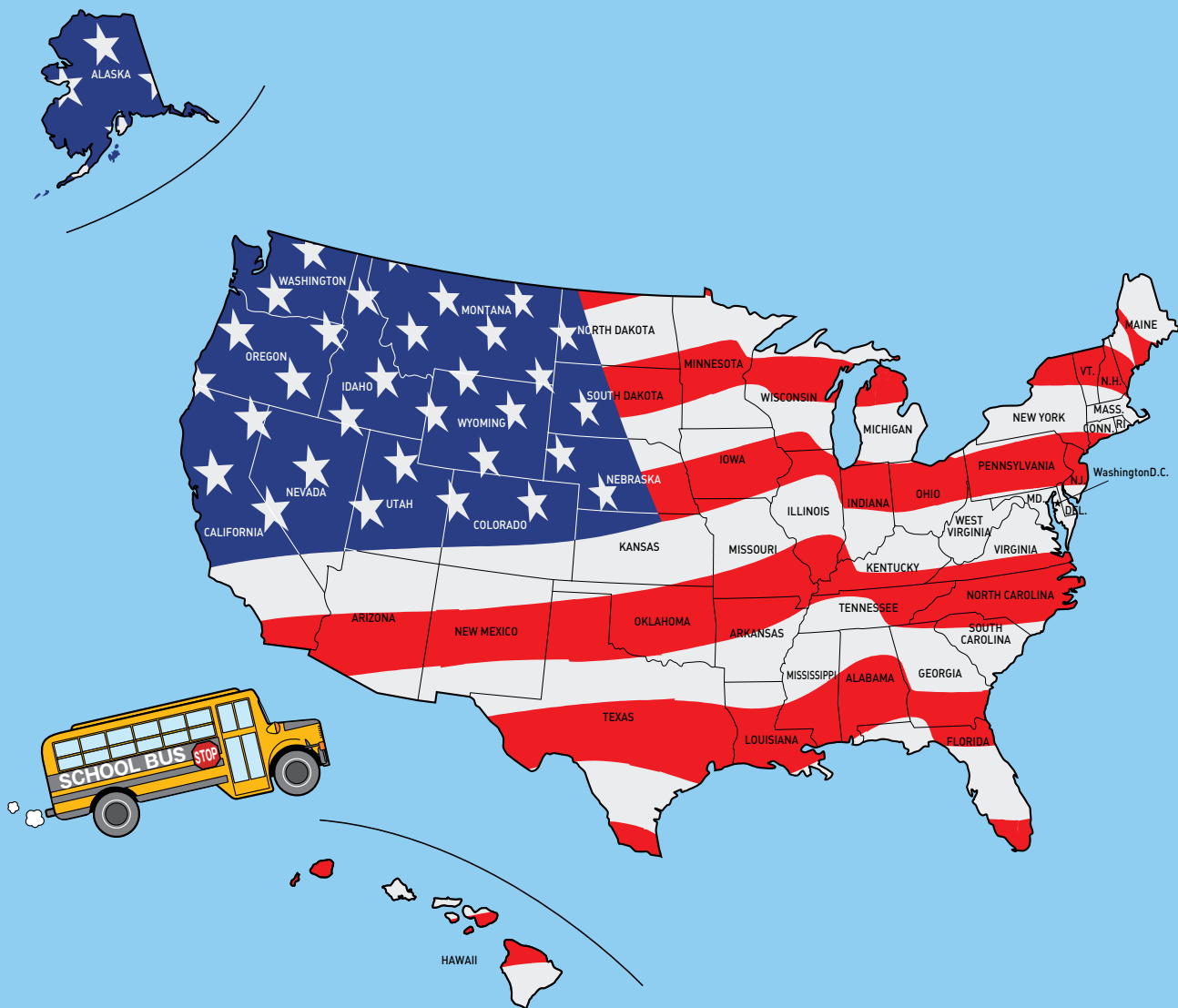


小・中学生を連れてアメリカへ赴任されるご家族へ

現地校入学のために



公益財団法人 海外子女教育振興財団

アメリカの学校に入学ということ

現地校に入学するという事は、英語を学ぶと共に、「アメリカの国民としての教育」を受けるといことです。したがって、言語の違いはもとより、日本の教育との違いなどから、初めは大きな戸惑いを感じるものです。保護者の方も、英語はもちろんアメリカの歴史・文化に対して前向きな姿勢を持ち、お子さんの学習を積極的に支援していく必要があります。

一方で、お子さんの滞在が長くなり、現地校に慣れていくと、これまでの日本はしだいに「異文化の国」となり、帰国の際に問題となるケースもあります。このため、家庭では日本語をはじめとする日本文化・歴史を教え、渡米時から帰国後の学習・生活適応についても念頭に置いて生活をしていくことが大切です。

Q1 英語についてはどんな準備をさせたらよいのでしょうか？

A1 赴任が決まってから英会話学校などに通わせることで、漠然としていた不安が解消されたり、アメリカ人の先生を知り、自信につながる場合もありますが、現地ですぐ学校に適應できるほどの英語力がつくとは限りません。学校への適應を早めるには、現地で困ったときに先生や友達に助けてもらえるような、学校生活に係るサバイバル的な英語を習得すると役立ちます。まずは、アルファベットの読み書き、基本的な挨拶、学校でよく見かける単語(教科名や文房具名、教室や校舎内の名称等)、先生に対してや友達同士で使う表現や簡単な単語・フレーズを学習しておくといでしょう。また、それらをフラッシュカードやメモ帳にして準備すると、お子さんにとって現地でのコミュニケーションツールとして役立ちます。

中学生のお子さんならば、英語の教科書の学習をはじめ、やさしい英語の本を読む、英語で日記を書くなどのほか、テレビやラジオの入門講座などを始めさせてみましょう。

英語の学習だけでなく現地校の様子*のイメージがつかめるような映画やビデオを見たり、英語を話せる人(できればアメリカ人)と接したり帰国子女の話を聞く機会を与えるとより良い準備となるでしょう。

*財団ではアメリカ「現地校入学のための親子教室」を開催しています。詳しくは裏表紙をご参照ください。

手づくりの お守り

フラッシュカードやメモ帳には英語・英語の読み・日本語を書いて一緒に作成してみましょう！

～例えば～

Thank you. (ありがとう)

I'm sorry. (ごめんなさい)

Good Morning. (おはようございます)

I can't speak English well. (英語があまり話せません)

I am from Japan. (日本から来たの)

Could you please help me? (助けてください)

Where is the office? (事務所はどこですか)

I am lost. (迷ってしまいました)

I don't understand. (言っていることがわかりません)

Could you repeat that please? (もう一度言ってください)

I am not feeling well. (気分があまりよくないです)

May I go to the restroom? (お手洗いに行ってもいいですか)



Q2 英語ができない子どもでも現地校でやっていけるのでしょうか？

A2

現地校では英語を母語としない子どもたちに対して、第二言語としての英語教育(ESL※1)が行われ、そこで英語の基礎を学ぶことができます。ESLの時間数や内容、サポートするレベルなど細かい制度は学校区、学校によって様々です。したがって、通学することになった学校のESLの内容に応じて家庭での対策も必要です。

なお居住地の学校や教育委員会で入学手続きをする際、お子さんの英語力を伝えるとともに、性格や学習面の様子※2なども具体的に伝え、編入後の対応に役立ててもらいましょう。

※1 ESL=English as a Second Language…地域によってELLやESOL等呼び名が異なります。

※2 現地校入学用に「海外子女教育手帳」を販売しています。詳しくは裏表紙をご参照ください。



〈Pull-out式〉在籍するクラスの授業中に2~3人別室で集中的に英語を学習する。



〈Push-in式〉在籍するクラスの中で授業を受けながら、日本語のバイリンガルスタッフに学習言語を訳してもらおう。

Q3 学校はどのように選べばいいのでしょうか？

A3

地域によって制度は異なり、学校区制または学校選択制をとっています。学校区制の地域ではほとんどの場合、居住地によって自動的に学校が決まりますので、学校を決めてから住居を探すことをお勧めします。まずはどのような学校に通わせたいかを決めましょう。治安面は大切ですが、日本人の在籍者数、ESLの有無、学校の学力のレベルなど、希望に当てはまる学校を現地の不動産屋、または地域に住んでいる日本人、教育委員会などから情報を得て、可能であれば事前に学校を訪問してみましょう。

学校選択制の場合には、近くの教育委員会、または学校で制度や手続き方法を確認し、それに従って手続きを行いましょ。

学校を決めることがお子さんの教育のゴールではなく、そこからが本当のスタートです。学校から帰ってきたお子さんを温かく迎え、学習を支える家庭であることが大切です。

ちょっと一息

～なぜ不動産屋に学校についての情報を聞くの？～

公立校の主な財源は国や州からの補助金と地域住民の不動産税により成り立っています。不動産価値が高ければ高いほど不動産税も高くなり、学校の運営資金が豊富になるということです。不動産屋は、不動産価値を十分に把握しているため、学校の財政状況も含め、教育水準を聞くのが一般的となっています。このようなことから、アメリカでは地域住民が学校を支えるとともに、学校の教育方針に対しても意見を述べます。

Q4 子どもは放っておいても自然と英語を身につけるのでしょうか？

A4

言語習得には個人差もあり、渡米するときの年齢によっても差はありますが、スムーズに会話ができるようになるまでにおよそ2~3年、教科学習についていけるようになるまでにおよそ3年は必要で場合によっては7年くらいかかってもおかしくありません。したがって、授業についていくための学習言語を習得するには、お子さんはもちろん、ご両親も相当の努力が必要です。

まずは「友達と遊ぶ」機会を作り、英語に慣れさせることです。また「読書の習慣」をつけることも効果的です。ESLや担任の先生に興味を持てる本を選定してもらい、読ませましょう。内容が理解できるようになってきたら、感想を書くなどの「読み書き」を充実させることができれば、なおよいでしょう。

一方、英語の習得と併せて「日本語力」を高めることが効果的です。これは、母語の基礎ができていると思考力等が発達し、英語の習得がよりスムーズになるからです。英語と日本語を結びつけながら学習をさせましょう。

いずれにせよ、言語習得には時間と地道な継続が必要です。学校の先生のアドバイスをよく聞き、過剰な期待やプレッシャーをお子さんにかけたり、他のお子さんと比べたりせず、お子さんが「根気強く」習得していけるよう支えていく姿勢が大切です。

Q5 英語が分からない間の授業中はどのように過ごせばよいのでしょうか？

A5

アメリカの学校では「自分で考え、自分の意見を持つ」ということが重視されます。特徴として「調べる⇒考える⇒まとめる⇒発表する」という過程をたどるものが多く、授業への積極的な生徒の参加が求められます。そして、試験の結果や宿題の提出だけではなく、このような授業中の態度や発言も評価の対象となります。

渡米直後で英語も分からない状態では発言することは難しいでしょう。しかし、たとえ不完全な英語であっても自分に自信を持ち、アイコンタクトを取り入れながら、英語でのコミュニケーションや発言を少しずつするようアドバイスをしましょう。親が思っている以上に英語ができないことで劣等感を感じてしまっているお子さんもいます。日頃から日本にいる時より、たくさん誉めて、よくお子さんの話を聞いてあげるよう心がけましょう。

英語での発言が十分にできるようになるまでの間、家庭では日本語でニュースやテレビ番組を見て感じたこと、思ったことを話させたり、社会情勢について親子で意見を交換するという練習をさせましょう。「考えをまとめ、述べる力」を養っておくことで、日本語ではもちろんのこと、英語力が身につけてきた折には英語でも考えを述べるのがよりスムーズにできるようになります。



〈Show and Tellの風景〉小学校低学年から人前に立って話す訓練。クラスの皆に紹介したい物を持ってきて5分程度で説明をする。

Q6 家庭での英語学習には家庭教師が良いと聞きましたが、どのように活用すればよいのでしょうか？

A6 お子さんにとって、英語を身につけることが何よりも現地適応を早めます。家庭での英語学習のために家庭教師(Tutor)をお願いするのも一つの方法です。学校で紹介できるTutorのリストを用意している場合も多くあります。低学年ならば英語で教えてくれる教師がよいですが、高学年ならば日本語と英語のバイリンガル教師をお願いするのがよいでしょう。お子さんの性格に合わせて「相性の良い」教師を選びましょう。また、高校生のピアチューター*はお子さんにとってお兄さん・お姉さんの存在となり、大人の家庭教師よりも親近感が持て、精神的に安定する場合があります。Tutorには最初の頃は会話や読み書きの基本的なこと、英語に慣れてきたら宿題やテスト対策などをお願いするとよいでしょう。いずれにしても、Tutorを頼む場合には指導してほしい内容を明確に伝えましょう。

※ピアチューター(Peer Tutor)…訓練を受けた高校生が他の学生に教える制度で高校のガイダンス部門(Guidance Department)でリストを常備しています。普通の家庭教師よりも費用が安く、まれにアメリカに長く住む日本人がいる場合もあります。

Q7 母親の英語力があまりないのですが、学校への対応はどうしたらよいのでしょうか？

A7 お子さんの学校への編入学に際して母親の英語力は問われませんが、子どもの教育に対して積極的に関わることは求められます。たとえたとどしくとも、メールや連絡帳などを活用し、家庭での学習や学校でのお子さんの様子について積極的に先生と連絡を取りましょう。

渡米したばかりで英語に不安がある場合は、父親と協力しあい、時には通訳のできる方にもお願いしましょう。しかし、いずれは母親として学校と連絡が取れる英語力は必要になります。子どもに親の勉強姿勢を見せることも大切ですし、コミュニケーションが取れるようになると、母親自身のストレスの解消にもつながります。趣味を通して英語を学んだり、大人のためのESL教室を受講するなどして、英語力を向上させましょう。

ちよつと一息

～日本の学校と大きく異なる小学校の一日～ (あくまでも一例です。)

- 8:20** リュック等のバックを持ってスクールバス又は保護者の車で登校。
上履きには履き替えずに校舎の中へ。
- 8:30** アメリカ国旗への忠誠の誓いをしてから授業開始。
とても分厚い教科書を使います。
- 10:15** 休み時間はおやつを持って校庭へ。
- 11:30** 体育の授業では体操服には着替えません。体育がある日は運動しやすい服装に運動靴で登校しましょう。
- 12:30** 昼食はカフェテリアへ。学校でランチを購入するか、家から持参します。
昼食の後はそのまま昼休みに。お掃除の時間はありません。
- 14:45** 帰宅もスクールバス又は保護者のお迎えで。部活はありません。スポーツチームに入っていれば練習がある場合もあります。

Q8 宿題に対して親はどのようにサポートしたらよいのでしょうか？

A8 現地校では、「本を読んで質問に答える」「テーマを決めて調べ、レポートを書く」など、読解力や作文力を養う宿題が多く出されます。

渡米後、お子さんに英語力がつくまでは保護者のサポートは欠かせません。お子さんに一人で宿題を取り組ませるのではなく、保護者もともに理解しようとする姿勢がお子さんにとっては心強いものです。

日々遅くまで宿題に取り組まざるを得ない場合には、お子さんがこなせるような宿題の量または内容に調整してもらいましょう。宿題は成績の一部として扱われますので、分からないという理由で提出をしなかったり、頑張った終わらせた宿題を期日を過ぎてから提出するのではなく、教師と相談して調整してもらった宿題に一生懸命取り組みましょう。このように個々に見合った内容の教育を行い、その中で個々がどれだけ頑張ったかを評価することを当然と捉えられていますので、遠慮せず親がお子さんのありのままの姿を教師に伝えましょう。

Q9 親はどの程度、保護者会や学校行事に参加すればよいのでしょうか？

A9 保護者会*などには両親そろって参加することが原則です。また学校行事も両親そろって参加することが望まれます。このような会や行事は夕方に開催されることが多いので、父親もできる限り参加しましょう。

さらに、多くの学校では保護者のボランティアを様々な場面で募りますので、積極的に参加し、現地校の様子を「目で見て、肌で感じ」ましょう。また、親が学校で活動する姿はお子さんにとっても心強く、安心感を与えるものとなります。

※代表的な保護者会…Back to school night (年度始めに開かれる保護者会で保護者向けに今年度のカリキュラム、成績の付け方等の説明がある。Open houseとも呼ぶ。)

Q10 父親はどのように子どもの教育に関わったらよいのでしょうか？

A10 子どもの教育に対して両親そろっての参加が求められるアメリカでは、家庭での父親の役割は日本にいる時より大きく、家族から頼られることも多くなります。お子さんの教育を母親任せにするのではなく、父親も積極的に関わっていくようにしましょう。

学校の行事等の参加をはじめ、特定の曜日は父親が「宿題を見る日」や「読み聞かせをする日」など、家庭内でルールを作るなどするとよいでしょう。また、現地では土日に活動をするクラブ・団体(各種スポーツチーム、Boy・Girl Scouts等)も数多く

ちょっと一息

～車社会が生む親子の時間～

アメリカは車社会です。ほとんどの都市では車による移動になります。

日本では一人で行動できるお子さんも、アメリカでは保護者の送り迎えがないと、通学したり、友達の家遊びに行くことすらできない場合もあります。したがって、必然的に親子で過ごす時間が増え、日本にいるとき以上に「親子の会話」が生まれます。

車社会というアメリカの文化も「プラス」と捉えらるとなるとお一層有意義に過ごせるでしょう。

あります。学校をはじめ、こうしたクラブ等への送迎をできるだけ父親がして、お子さんとのコミュニケーションの場を設けましょう。言葉が通じない未知の世界では、両親のサポートがお子さんにとって心強く思われます。海外赴任をきっかけに家族の結束がより一層強まったというケースもしばしばです。ぜひ両親そろって子どもの教育、子どもへの関心を持ち、サポートしてあげてください。

Q11 現地校の勉強が大変そうです。日本の勉強はしなくてよいのでしょうか？

A11 現地校の宿題など、英語での学習負担が大きくなることは事実です。しかし、いずれは日本に戻ることを考えると、現地校の学習とともに日本の勉強も怠ることはできません。

補習授業校*がある地域に住んでいる場合は通わせて国語・算数（数学）を中心とした日本の学習の基礎基本を習得させましょう。また、補習授業校に通学させることで、日本人の友達との出会いがあることに加え、日本語で授業が「分かる!」という自信や達成感を味わえ現地校への適応を手助けすることになります。

補習授業校がない地域に住んでいる場合や補習授業校で学習しない教科は通信教育などで補いましょう。

大変であっても最低限、国語の教科書を音読させるなどして日本の学年相当の基礎的な国語力の維持に努めましょう。

帰国後のことを考えると、日本の勉強をする時間を渡米直後から習慣づけ、継続していけるよう支えていくことが大切です。

※補習授業校…日本の教科書を使って国語、算数（数学）をはじめとする日本の教科を学習します。また、学習だけでなく、日本の学校習慣、生活習慣なども指導し、日本の学校文化に触れる機会をなるべく多く設けようと努力している学校も数多くあります。



〈補習授業校の授業風景〉

～アメリカの学校のルール～

アメリカの学校は一見自由に見えますが、「絶対に守らなければいけないルール」があります。暴力的行動・発言、またそれらを表すような服を着ていくことは禁止されています。学校で決められているルールに違反した場合は小・中学生であっても日本の学校より格段に厳しく罰せられ、場合によっては退学になることもあります。入学の際に配られるスクールルールは必ずお子さんと一緒に通学前に確認し、守るべきことを教えましょう。

財団事業と出版物等のご案内

教育相談 (東京・浜松・名古屋・大阪・北九州ほか)

現地での学校選択、手続きや教育制度、高学年のお子さんの帯同、帰国後の受入れなど、専門の教育相談員との相談ができます。面談のほか電話やホームページからも相談が可能です(面談・電話・オンライン相談は予約が必要です)。

赴任前子女教育セミナー (東京・浜松・名古屋・大阪・福岡ほか)

海外での教育の全体像をつかんでもらうことを目的としています。赴任先の学校の概要、学校選択の留意点や財団のサービス・教科書の手続きについて海外子女教育専門の教育相談員等が説明します。受講は無料です。

現地校入学のための親子教室 (東京・名古屋・大阪)

現地校へのスムーズな編入学を目的としています。親教室では、現地の教育環境を中心に学習し、子供教室では、帰国生の話を聞いたリネイティブの先生と英語を使った体験学習をしながら、学校生活を身近に感じることを目的としたプログラムになっています。

渡航前配偶者講座 (東京)

海外生活をより楽しく充実したものにするための駐在員配偶者のための講座。心と情報の整理を通して学ぶ「海外生活準備コース」と、日常生活に即した「英会話コース」があります。

渡航前子ども英語教室 (東京)

小学生のためのクラスで、PHONICS、初歩の英会話、学校で頻繁に使う単語の学習等を通して、英語に慣れることを目的にしています。

海外子女のための通信教育

海外子女専用の通信教育です。現地校で学んでいる小・中学生の学習状況を十分に配慮して作られた教材で、帰国後、日本の学校にスムーズに適応することを目的とした「小・中コース(国・算/数、理・社)」のほか、幼児を対象に絵本をお届けする「幼児コース」、高校生を対象とした「小論文コース」があります(小論文コースは2017年3月終了)。

※お申し込み方法は、ホームページ(<http://www.joes.or.jp>)をご確認ください。

サバイバル イングリッシュ はじめて英語の学校に 通うお子さんへ

新しい学校生活に1日も早くなじめるように「これだけは知っておいて」「こんな表現はよく使おう」というフレーズ・単語を場面ごとに集めた日英対訳集。毎日携帯もできるコンパクトサイズの本です。
(定価: 762円+税 会員割引価格: 667円+税)

新・ことばのてびき 算数(数学)・ 理科用語日英対訳集

海外および日本の算数(数学)・理科の教科書によく出てくる学習用語(小3~中3程度対象)の対訳を引きやすくまとめた1冊です。お子さん自身だけでなく、家庭でお子さんの学習をフォローする保護者の方にも非常に便利です。
(定価: 1,143円+税 会員割引価格: 952円+税)

海外子女教育手帳

日英両言語による自己紹介ノートで、現地校の先生にお子さんを理解してもらいたい時、帰国後に海外での学校生活を紹介したい時などに役立ちます。英文の在学証明書・成績証明書フォームも含まれています。
(小学生用・中学生用それぞれ定価: 556円+税 会員割引価格: 463円+税)

アメリカの 現地校に通う ということ

アメリカで子育てをし、教育にも携わっている方の現地校の解説などを掲載しています。また、保護者のための必須英語(学校編)も巻末に紹介しておりますので、現地校へ通う上での準備にすぐお役に立つ1冊です。
(定価: 600円+税)

公益財団法人 海外子女教育振興財団

2016年3月発行

東京本部

〒105-0002
東京都港区愛宕1-3-4
愛宕東洋ビル6階
TEL 03-4330-1349
FAX 03-4330-1355
E-mail service@joes.or.jp

ホームページ <http://www.joes.or.jp>

関西分室

〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞ビル3階
TEL 06-6344-4318
FAX 06-6344-4328
E-mail kansai@joes.or.jp